

■山上宗二 茶人。出世して秀吉の使者を務めながら、利休茶の湯の書「山上宗二記」を著したが、秀吉に逆らい斬刑になった。
やまのうえそうじ
・・・・・・・・1544＝ 古田織部が誕生した年、貿易で栄えた絶頂期の自由都市堺で、茶人でもあった富商(薩摩屋)に生まれる。

ザビエル来日1549＝ 5歳：

川中島の戦始1553＝ 9歳：

桶狭間の戦・1560＝16歳： 若い頃から熱心に堺の南宗寺に参禅，

大村長崎開港1562＝18歳：この頃までに茶の湯をはじめ。

武野紹鴎の一番弟子で連歌師でもあった京都の豪商辻玄哉から名物秘伝書を伝授され，

・・・・・・・・1566＝22歳：堺の中心地市小路で茶会を開き，堺の豪商(天王寺屋)津田宗及が初めて参加，以後，親交。

織田信長入京1568＝24歳：この年，堺の豪商今井宗及を代官にし，織田信長が堺に矢銭2万貫を課す。
何らかの事情で辻玄哉を批判するようになってそのもとを離れ，同門の兄弟子で(薩摩屋)とも交流のあった
千宗易(利休)の高弟となり，利休を尊師とまで称えるようになる。

比叡山焼討・1571＝27歳：

室町幕府滅亡1573＝29歳：この年まで，宗及を中心に度々茶会を開くうち，
長島一揆鎮圧1574＝30歳：今井宗久・津田宗及・千宗易が信長の茶堂となり，彼らに準じる一員となって，信長が開いた京都相国寺
の茶会に堺衆10人の一人として招かれ，

堺南宗寺での座禅・禅問答の会に参会するなど，禅についても相当の修行を遂げている。

長篠の戦・1575＝31歳：先師辻玄哉が京都で死去。

安土城築城・1576＝32歳：密庵の墨跡を使い始める。

安土楽市楽座1577＝33歳：密庵の墨跡を使い始める。*以降，頻りに茶会を開き，しばしば宗及よりも上座に座ることを許されるほど，華やかな時代を迎える。

石山合戦終・1580＝36歳：

パリエーノ謁見 1581＝37歳：宗易の茶室を借りて虚堂墨跡を披露。豊臣秀吉から名物茶壺「四十石」を授与され，それに対し信長から拝

領していた紹鴎旧蔵の「小叢の釜」を献上するなど，すでに秀吉の茶堂それも首席になっていたらしいが，

本能寺の変・1582＝38歳：秀吉の許しを得て瓢庵と名乗り始める。本能寺の変後は，宗易・宗久・宗及の後塵を拝することになり，

賤ヶ岳の戦・1583＝39歳：深三畳床なしの茶室を使う。豊臣秀吉から堺衆茶匠として召された際，秀吉に逆らって不興を買い，牢人

となつて北国へ下向し，前田利家に召されたことになっているが，

長久手の戦・1584＝40歳：実は，利家と友好関係を築こうとした秀吉の使者だった可能性が高く，前田家の奏者として，早くも堺に

戻って茶会を開き，秀吉の茶会にも顔を出している。

豊臣秀吉関白1585＝41歳：前田家の所領問題処理にあたり，佐々成政の降伏で北国情勢が一段落すると，その役割を終えたらしく，

前田家を去って，大和郡山に移った豊臣秀長の茶堂に迎えられ，

秀吉太政大臣1586＝42歳：大和郡山で記録に残る最後の茶会を開き秀長を招き，奈良で秀長の茶堂をつつめたが，

パレンソ追放令 1587＝43歳：秀吉が2年前に紀州征伐した後の不穏な動きを監視するためか，高野山安養院へ移ることになり，

刀狩海賊取締1588＝44歳：*利休茶の湯の書として名高い「山上宗二記」を書いて伝授を始める。その後，おそらく秀吉の意向を受けて

小田原へ向かい，北条氏規に接近し，氏直の茶堂になったと思われる。名物記「茶器名物集」を著す。

・・・・・・・・1589＝45歳：

秀吉全国統一1590＝46歳：*秀吉の小田原攻めに，皆川広照とともに城を脱し，利休を介して秀吉に伺候したようだが，そこで秀吉を

逆上させるようなことをしたのか，耳や鼻を削がれたあげく，斬刑に処せられた。